

## 映画批評

### 『日輪の遺産』

山本澄子（立正大学名誉教授 映画英語教育学会）

2011年3月、地方名士の金原庄造（八名信夫）が息を引き取る。息子（北見敏之）や孫（麻生久美子）を前にして妻、久枝（八千草薫）は一冊の古い手帳を大事そうに開いて語り始める。

同じ頃、カリフォルニア州に暮らすマイケル・イガラシ（ミッキー・カーティス）は回顧録の出版を前に取材を受けている。



1945年8月以降、イガラシ（三船力也）はダグラス・マッカーサー（ジョン・サベージ）の傍らで、終戦直後の日本の様子を目の当たりにしていた。

終戦直前、1945年8月10日近衛第一師団の真柴少佐（堺雅人）と東部軍経理部の小泉中尉（福士誠治）が陸軍省の大臣室に呼ばれる。そこには阿南陸軍大臣（柴俊夫）始め軍のトップが顔を揃えている。二人は敗戦の色濃い日本の戦後復興のため、時価900億円の財宝を隠匿する極秘任務を命ぜられる。

（現在の貨幣価値では約200兆円）山下将軍がマニラから秘かに持って帰ったものである。



二人には運転手兼護身係として望月庄造（中村獅童）が加わる。三名は時

おりの伝令に従って行動する。大臣室で話が一段落した時、東部軍司令官、田中静彦（山田明郷）は突然窓を開け、夏の日差しに向かい大声で

All the world's a stage, And all the men and women merely players. と叫ぶ。シェイクスピアの『お気に召すまま』第2幕第7場 原文はまだまだ続く。

They have their exits and their entrance; And one man in his time plays many parts, His acts being seven ages. At first the infant, Mewling and puking in the nurse's arms;

人間世界はすべて舞台ですよ。そうして男 女はみんな役者なのですね。

それぞれが出たり入ったりして、一人で何役も勤めます。

一生は先ず7幕がお決まりです。始めは誰でも赤ん坊で、乳母に抱かれて泣いたりよだれをたらしたり。人生のサイクルを語るのだがこの田中の短い引用は、これからの物語を暗示するようだ。7幕の人生と女学生の鉢巻きの「七生報国」はどのように連動するのだろうか。



その頃、東京の森脇女学校の学生は勤労奉仕の工場で草むしりをしている。そこへ特高に連行されていた野口先生（ユースケ・サンタマリア）が釈放され戻ってくる。翌11日から財宝は弾薬箱に入れられ、武蔵小玉駅に運ばれる。級長の久枝（森迫永依）、スーちゃん（土屋太鳳）、元気なマツさん（遠藤恵里奈）、サっちゃん（松本花奈）など20名の女学生と悪政野口先生が召集された。

腕力よりも純粋な心が選ばれたのか。何も知らずに「お国のため」とばかりに財宝の隠匿を手伝う女学生たちがようやく辛い任務を終える頃、非情な命令が軍部からくる。その時真柴、小泉、望月たちのとった行動は、そして女学生や野口先生たちの行方はどうなったのだろうか。



物語の中で自分たちを励ますために学生たちが笑顔で元気よく歌う軍歌に心が痛む。あの壊滅的な打撃から復興して70年目の日本。奇しくも2011年3月以来、この国は新たな打撃、復興の道を辿らなくてはならない。この作品には「世界の中の日本」として歴史を再考し、襟を正し、勇気を持って新しい出発への思いが込められている。